



若い日

なくせ子どもの貧困

尚志館高2年

石峰 和真

6月28日付と7月1日付

の本紙で「子どもの貧困率」について書かれた記事を見ました。この時「子どもの貧困率とは一体何だろう」と思いました。

子どもの貧困率とは、平均的な可処分所得(個人が自由に使える所得)の半分を下回る世帯で暮らす18歳未満の子どもの割合のこと

で、その割合は全国で13.9%、鹿児島県では12.9%とありました。約7人に1人の子どもが当てはまるということなんです。この数値には驚きました。

幸い、私や私の友人に当てはまる人はいませんが、私はこの問題をすぐに解決してもらいたいと思いました。

一番怖いのは、これをきつかけとしたじめです。本人は何も悪いことをしてないのに、家庭環境が原因でいじめを受けるなんてことは、絶対にあつてはいけません。学習機会に差が出るのも問題です。本人はやる気に満ちあふれているのに、お金が原因で塾に通えない、欲しい参考書を買ってもらえない。これは悲しいことだと思えます。少しでも早く、多くの子どもたちが、心置きなく勉強に取り組むことができるようになればいい、と思います。

(志布志市)